

令和元年度  
第2回朝日地域振興懇談会

会議録（概要）

期日：令和2年3月27日（金）

場所：朝日庁舎 大会議室

令和元年度 第2回 朝日地域振興懇談会会議録 (概要)

- 日 時 : 令和2年3月27日(金) 13時30分から15時30分まで
- 会 場 : 朝日庁舎 大会議室
- 出席委員 : 遠藤初男、亀井栄一、難波久男、渡部智也、難波智明、渡部巖、清野定信、  
工藤悦夫、菅原明美、難波金一 計10名
- 欠席委員 : 小野寺太、清野清、帯刀とく子、渡部晶樹、清野一女
- 市側出席職員
  - 【庁舎】朝日庁舎支所長、総務企画課長、市民福祉課長、産業建設課長、  
総務企画課職員
  - 【本所】企画部地域振興課職員 計6名

一次 第一

1. 開 会

2. あいさつ

工藤会長あいさつ

朝日庁舎伊藤支所長あいさつ

3. 協議

(1) 朝日地域まちづくり未来計画について

(2) 令和2年度予算 朝日庁舎主要事業について

(3) その他

4. その他

5. 閉 会

1. 開 会 13時30分 (進行 総務企画課長)

2. あいさつ

①工藤会長

今年の冬は雪も少なく、喜ぶ人も泣く人もどちらもいると思う。その状況の中でコロナウイルスの関係も世界的な問題となってきた。皆さんには、それぞれの心構えを持ってきていると思うが、これから議題について考えて頂き、懇談会で話題にすることで少しでも良くなるような方向性をできればと思う。

②朝日庁舎支所長

3. 協 議

会長 それでは協議 (1) について事務局より説明をお願いします。

(事務局説明) (1) 朝日地域まちづくり未来計画について

会長 ただ今事務局から説明がありました。この資料も皆さんには事前に配布されており、年度末の忙しいなか大変ですが、それなりに一読されたかとは思いますが、皆様から質問、意見どんどん出してもらって進めたいと思います。皆さんいかがでしょうか。

委員 資料 9 ページ、プロジェクト概要 (2) に、デジタル簡易無線を活用し、登山客に情報提供とあるが、具体的にはどのような物か。

産業建設課長 以東岳に上る登山道については、携帯電話が通じない区間となる。途中で大鳥小屋と以東岳小屋があるが、特に以東岳小屋は定員 20 名という事で、ピーク時には泊まれないこともありえる。そのほか、危険情報や天候状況など、登山者へ共有してもらう方法として、一昨年から大鳥小屋と以東岳小屋にデジタル簡易無線を設置し、管理人から登山者へ情報あった時に呼びかけするものである。また、それぞれの小屋の現在の空き具合を知らせることもできる。必ず通るわけではないが、登山客への情報提供を行うために使用している。

会長 課長の説明のとおり、携帯電話が通じなくて、何十年も不便な面があった。地元民が発見したのだが、以東岳山頂に携帯が通じる場所が一カ所だけある。登山者には、この「タキタロウネット」を利用すると便利になる。大鳥小屋には衛星電話もあるが、できれば道中 (泡滝～大鳥小屋) にもう 1 カ所あると安心できると思う。

副会長 6 ページに関する部分で、産直施設等の機能について、総合的な観光案内ができるような施設へと話し合いが進められているということだが、どこまで進んでいるか。また、道の駅 月山のインフォメーション化を強めていくという部分との関連性について、お聞きしたい。

- 産業建設課長 まず、道の駅の定義をご説明するが、①無料で使える駐車場、②24 時間で使えるトイレがある、③24 時間で使える公衆電話があるという事である。月山は県内で一番に指定されたものであり、県内でも様々できてきているが、世間一般のイメージとして、飲食施設があつて、物販があり、場所によってはレジャー施設や中には観光のインフォメーションが併設されているところというのが強い。世間一般の見方と本来の道の駅との姿がかけ離れている状況になってきている。
- 計画している産業振興施設は、道の駅の機能を持たせようとしている訳ではなく、朝日地域では産直施設が老朽化していることや、インフォメーション機能がやや弱い、公共交通のベースとなる乗継・待合・休憩施設、地域住民の交流の場、地域の情報を発信する場として検討している。施設を建てるために、どこに建てるか、新規でどのような機能が必要とされているかを委員の方に検討して頂いているところである。先進地の事例を見ながら、地域の課題を洗い出して、それを解決できるかを検討しながらそれをだれがやるか、行政だけでなく民間の力で行う部分など様々あると思うのでそれらを検討している。検討結果についてはホームページで公開しているので、詳細についてはご覧頂きたい。
- 委員 (夏季観光バスについて) 泡滝コースと、注連寺～大日坊～七ツ滝のコースがあるが、何かの会議に行ったときに、大鳥の方で泡滝ダムまでは舗装になっていますか、大丈夫ですかと言われた。大網地内では、2つのお寺を回ると(時間をロスして)あまりありがたく無くなると意見を言ったが、どちらかというのは無く2つの寺を回るといふ事になったと聞いている。
- 産業建設課長 夏季観光バスについては、7月から9月いっぱいまで運行している。一つは大鳥を抜けて泡滝ダムまで、一日3往復、主に大鳥池、以東岳への登山客や、朝日連峰まで縦走する登山客をターゲットにしている。こちらはかなり好評で、8人定員がすぐ埋まる状態であるが、土日に悪天候があると当日キャンセルもあるようだ。
- もう一つは、ぼんぼから注連寺・大日坊、多層民家を経て七ツ滝までのコースで一日4往復を運航している。庄内交通の路線バスに接続するように設定した。注連寺、大日坊の開館時間が違うので、ホームページにモデルコースを掲載し、バスの乗り方によっては、それぞれ一時間程度は参拝できるようにした。こちらは、マイカーで行ける地域のため利用者は少なかった。ただ、遠くから公共交通機関を利用した方がメインで利用してもらったり、地元の高齢者で免許返納者が、この路線ができたおかげで、バスを利用して久しぶりに参拝できたと礼状をもらったりした。課題は、お昼を食べる場所が無いという事があり、観光協会を含めて詰めているところである。
- 会長 バスの件で関連して、大鳥線は泡滝まで来てもらっているが、定員以上になると歩いてくることになる。連絡つかない場所なのでしょうがないが、もう一人二人何とかできないか、何か対策できるとありがたい。
- 産業建設課長 どちらの路線も予約制にしており、利用者には個人情報も頂いているので、利用後ダ

イレクトメールでアンケートを行った。どちらも朝1番の便は人気で、利用者からは大きなバスにならないかや、予約がいっぱいの際は2台運行できないかなどの要望があったが、今のところは、予算の範囲内で遠くの方から知ってもらえるかをメインに行っていて、第2便でも以東岳まで登山可能なのでそちらを紹介している状況である。

会長 泡滝で電話がつながればいいのだが。昨年、朝日鉱泉に行ってきたが、あちらは電話がつながるので、たくさんの登山者がいれば2台などの対応できるのが良かった。時折歩いている人もいたので、ぜひ来年度以降も継続しながら検討してもらいたい。

産業建設課長 乗車結果が良ければ、継続できると考えている。現在は民間のタクシーを借り上げて行っており、経費が掛かる状況だが、結果が良くて定期的にやれるようであれば、もう少し充実できると考える。また、観光客が使うのと地元住民が使うのでは方向が逆なので、帰りに地元住民が使えば利用率が上がると思う。予約無くても空いていけば乗れるので。

委員 利用状況は、泡滝線の方が多いのか。

産業建設課長 利用人数は、泡滝線が180名、七ツ滝線59名となっている。

委員 7ページを見ると、朝日地域は山ばかりの地域となっている訳で、うまく資源を利用できればいいのだが、日本全国どこを見ても荒廃した状況になっている。市産材を利用すると補助が出る制度があるが、まだ徹底されていない感じもあるので、なるべく地元の材料を利用してもらえるようアピールしてもらいたい。今年度の取り組みについて、もう少し具体的に聞きたい。

産業建設課長 森林荒廃防止支援事業については、植えっぱなしではどうしても荒廃してしまうので間伐を行ったり、未利用材である広葉樹の残材をいかに次の生産にあてていくかということで、具体的には菌茸類の原木にするなどの仕組み作りを進めていきたい。また、菌茸類を作っただけではだめなので、それをどのように流通させていくか検討していきたい。なお、180万円というのは、山の恵み産地化事業と森林荒廃防止支援事業をあわせての金額で、全期間の金額であり令和2年度は30万円の予算となる。

委員 3ページの高校生の通学費支援について、私の子供も高校生であり、他の保護者の方からも話を聞くと、利用者が少ないという原因が、時間が早くて、もう10分か15分遅かったら乗せるのにという意見を聞いた。庄内交通に話すべきで中央高校に到着する時間を逆算していて時間の変更は大変だと思うが、遅くなれば乗る人がいると思う。個人的にも冬季間は乗せたいのだが、補助は全期間を対象としていて、定期券の値段を考えると冬季間だけの支援はできないものか。また、温海と朝日だけの事業という事だが、温海の方は利用者がいるのか。

事務局 バス時間については、定時定路線であり終点が決まっている、安全運転でかつ高校の始業時間に合わせていると思うのですがすぐには難しい。保護者からそのような話があった事は庄内交通には話をしておく。温海地域の状況については、バスと電車が使えるので、細かい数字は手元にないが、100万円を超えている金額であり、温海は朝日の2倍程度ととらえている。補助の期間については、月額5000円を上限として年間6万円としているので、冬季間、例えば3カ月だけでも5000円上限で利用できるが、説明の裏面で「自宅から通学する合理的な経路で、1年間通学するのに使用する最も経済的な定期券」ということを規定しているので、総合的には1年間のキャンパスパスポートを購入したほうが有利であることを保護者に説明している。

委員 5ページの地域情報広報として情報カレンダーについて、会社等であれば壁に貼れるが、個人としては大きすぎて貼ることが難しく、昨年から使っていない。サイズやデザイン等を変える予定はあるか。

総務企画課長 地域振興カレンダーについては、以前は縦長の生涯学習カレンダーとして発行していたが、同じように大きくて貼りにくいという声があった。地域振興カレンダーのデザインをする際、1カ月ごとに切り離しできるように変更したので、各家庭にあった貼り方をお願いしたい。一カ月ごとのめくるカレンダーにすると予算では作成できないため、現状としてはご了承いただきたい。頂いたご意見を含めて、今後検討したい。

委員 4ページの雪の問題について、情報提供と現状認識をお願いしたい。資料では玄関前の除雪事業という掲載があるが、大網に住んでいて、玄関前の除雪ももちろん大事ではあるが、それ以前に雪下ろしが一番のネックになっている。今年のような異常気象なら問題にならないが、例年はこんなものではない。特に2年前の豪雪の時、民生委員であり、シルバーにも入っている両面の立場として様々な体験をさせて頂いた。シルバーで雪下ろしする一人暮らしや高齢者世帯などの家として10軒あるが、頼まれた家は4mほど積もっていた。住んでいる人は大変な思いをして生活している。それをシルバーが雪下ろしするわけだが、シルバーも後期高齢者であり、体力的にもなかなか大変な状況である。また、新規でシルバーに入る人も無く、雪下ろしに出てくる人は少なく、やめる人は好調であるので人材不足になっている。そのような状況を見ると玄関除雪もそうだが、雪下ろしが喫緊の課題となっているのではないかと。2年前には、上田沢で一人暮らしの家が倒壊した。あれはどこでも起きて不思議でなく、地域全体の問題だろうと思いき、今後ずっと続く問題となる。大網のある一人暮らしの家庭で、雪下ろした後、「ありがどの」「雪下ろししてもらったがらゆっくり寝らいる」と何回も言ったことが頭に焼き付いている。シルバーでは、平地の会員が大網の豪雪地帯で雪下ろしは丁重に断られ、したげられない。子育て世代では、雪の問題がネックとなって、また、保育園や小学校が無くなったことから子供の将来を考えて大網を出ている家庭が多い。このような状況を行政全体の問題として真摯に考えてもらいたい。

会長 今の話と大鳥も同じ状況になっている。今一番の課題は、住んでいない家の雪下ろ

して、屋根が壊れ、穴が開いている家もあるがそれでも頼まれるので、かなり危険な状況となっている。自治会でも様々な意見が出されているが、玄関前除雪の予算はどうなっているか。

総務企画課長

各コミセンに取りまとめをお願いしており、朝日地域全体で4グループが作られていて、除雪機の保険料、燃料費、修繕料などの支援をしている。まちづくり未来事業で玄関前除雪を発想したのは、雪下ろしが一番労力的にも経済的にも大変なのは理解した上で、生活困窮世帯については、福祉の事業がある。重機を使った排雪も事業としてある。

せつかく近くに除雪機を持っている人がいるのだから、周りの家の人から何か助けることができないかということから始まった。他にも皆さんからもこういった事業はどうかとアイデア頂ければ、どういった実現の方法があるか検討できるのでよろしくお願ひしたい。

委員

1点目として、地域内交通確保の事業ができなかったと話があつたが、去年からの夏季観光バスについて利用した方から好評な声が聞けて良かった。継続をお願ひしたい。市直営のバスの運行にいたらなかったという事については、福祉の面から社会福祉協議会とかのバスなどの利用の方が良いという場面もあるのかもしれないが、高齢化率も高く、これから免許返納者も増えてくることが予想される。また、朝日の地理的な要因で基幹路線のバス停から集落まで1~2kmは当たり前となつていて、出てくるだけでも大変である。今倉沢でやっている買い物事業では、集落まで車が入ってくれるという事になると地域としては利用しやすい。このようなきめの細かい事業をやっていかないと利用したくても利用できない。羽黒の路線バスなどは、路線が集落を回るので利用率が非常に高い事などを見ると、朝日地域でも法律のしがらみに固執せず、住民と行政と汗をかきながら仕組み作りをしていかなければならない。地域の住民の利便性を考えながら、デマンドバスなどを早急に検討してもらいたい。それには高校生の通学までカバーするような形に出来ないか。現状だと庄交のバスの出発が7時台から6:50になったので大変である。現在の市営バスも利用率が出ているが、様々工夫する部分について、行政もそうだが、市民の方からも工夫をしてもらいながら負担してもらいながら公共交通の維持をしていければと思う。

2点目として、タイとの交流事業について、今回は残念ながらできなかった。タイの子供の村学園との交流は、未来を担う青少年教育にとって大事である。事業として朝日地域の予算であるが市民全体にかかわる事業として全市からの募集となったと思う。本所には国際交流の専門部門があるので、その中で、朝日にあるこれまでの交流についての情報やノウハウを提供しながら、より専門的に市民全体の事業として発展させていくことは可能ではないか。

3点目として、地域医療の関係で、人が住んでいる限り住民の健康と安全を守るのは重要であるが、朝日地域の2つの診療所があるが、利用率はどうなっているか。従来は医師が歩いたり、雪上車で診療所まで行った歴史もあるが、最近は交通事情もよくなり、高度医療機器の導入などがある中で、一次診療としての立場で、どの程度利用

されているのか知りたい。また、利用しやすい施設としての体系や啓蒙はどのようにしているか。

事務局

1 点目について、朝日地域の市営バスや羽黒地域の市営バスがあるが、朝日は庄内交通の減便に伴って補完するという経緯から、庄内交通の路線バスとバス停が基本的に共有になっている。土曜試験運行については、法令上の認可が異なるので、アンケートで要望のあった倉沢集落に入ったり、落合の住宅団地に入ったりして、利便性を高めた運行の試験をしている。市営バスは、減便の代替えのため、現在の定時定路線で運行している状況であり、デマンドというお話もあったが、現状がすべての要望に応えられてはいないのは認識している。地域内運送については、各コミセンや福祉センターとの打合せを行いながら、本来の地域公共交通とはどうあるべきかを考えているところであって、何が良いかという点は、これから市全体の状況や運送業者との協議を経ながら決まっていくものであり、地域の皆様からもご意見頂きながら検討していく。

情報提供だが、来年度、温海地域で庄内交通の一部減便、廃止などが行われ、その部分については、2 路線は定時定路線、2 路線はデマンド型で検討するという事があるので、注視していきたい。

総務企画課長

1 点目の補足として、庄内交通の朝のバス時間について、鶴岡東高の特進科が間に合わない、または庄内農業高の乗り換えに間に合わない等の理由があっても早い方に合わせることになるので早くなったものである。現状でそのような利用が無く、遅くした方が利用率が上がるのであれば、庄内交通と折衝していきたい。

2 点目について、約 13 年前までは朝日地域で、朝日村でも 5 年間、中高生を派遣していた事業だが、合併後予算が確保できず、途切れていた。今回、地域まちづくり未来事業という枠組みで、各地域で事業を考えるという事になって、30 年以来朝日地域と深い絆で結ばれている子どもの村学園にもう一度中高生を派遣したいという事で事業を立ち上げた。ただ、朝日地域の子供が減っていることもあって、募集は市内全域を対象とすることにした。今回、8 名のうち朝日地域からは 2 名いたが、市全体としてこれから事業を展開することは朝日庁舎としても検討すべき事項で、市全体の事業としての位置づけになるよう道筋を建てたいと思う。主催となっている鶴岡タイ子供の村学園友好協会については、ほとんどが朝日地域の派遣経験者が主になっているので、徐々に市内の参加者が増えることで会員を増やしていきたい。

市民福祉課長

3 点目について、現在 2 つの診療所があるが、診療体制は、上田沢診療所は、毎週金曜日の午後 1 時から 4 時まで、大網診療所は、週 3 回、月水金の午後 1 時から 3 時 30 分までとなっている。また、交通手段を持たない方も受診しやすいように、各週 1 回、患者輸送車を運行している。利用者については、1 日当たりの平均で平成 30 年度の実績で上田沢診療所が約 8 人、大網診療所が約 10 人となっている。この利用人数については年々減少している。理由としては、区域内の人口減少、定期的に通院していた方が死亡したり、転院したりする一方で、新規の患者があまり増えていないと



いう状況である。今働いている方々については、鶴岡や楡引にかかりつけ医がいる場合が多く、例えば、その方々が退職したとしても、かかりつけ医のところに通うことが多く、なかなか難しいところがあると思う。

ただ、年々減少しているとはいえ、朝日地域で開業しているお医者さんがいらっしゃる中で一時医療機関として2つの診療所が果たしている役割はとても大きいものがある。また、これから高齢化が進み、免許返還等が進んでいくことを考えると、どうしても遠くに診療に行くことが困難な方が増えることを考えると、引き続き安定的に診療所を運営していく事を努力していきたい。

会長 診療所の話を見ると、荘内病院などであれば様々な検査ができるが、診療所では、風邪引いたなど軽微な症状を判断する位しかできないのは仕方ないが、必要最低限度、医者に診てもらえるだけでもありがたいので、自分も免許を返納するとしたら利用すると思う。継続して無くさないよう頑張ってもらいたい。

副会長 中央コミセンの関係だが、夜間管理人と意見交換をした際に、防災に関しての意見があった。例えば、朝日地域に警報が出た場合、職員の体制は庁舎に待機になると思うが、その間、夜間管理人が電話対応しているが、待機している庁舎職員とのやりとりが難しいという事があった。待機が二人体制ならば、1名はコミセンに待機できないかという意見があった。具体的に防災拠点として避難所としてコミセンを使用する場合、毛布等の資器材の準備や場所が見えないがどのようにするのか。その意味では中学校も防災拠点となっているが、カギはコミセンにあるので、緊急時、鍵開けなど誰がどうするのかわからない。そのようなことを、もう少し整理をしながら庁舎とコミセンとの話し合いを深めていく必要があると感じた。

総務企画課長 庁舎の警報が出た場合の待機の体制については、大雨警報では担当者が1名となっており、ほとんどがそのような警報が主であった。昨年の地震の時は、20~30名の職員が駆け付けたという事もあるが、警報が出た場合は1名であるので、コミセンに待機するのは難しい。待機しているときは、電話を切り替えるなどして庁舎で取るようにするなど対策はしていると思うが、コミセンとの話し合い、夜間管理人を含めた話し合いは、有意義だと思うのでぜひさせて頂きたい。ただ、避難所については、急に開くという事はほぼ無いものと思うので、きちんと物資があるところから避難所に運べる体制をとるなどさせてもらおう。

また、地区指定職員という制度があつて、災害の際は2人ずつ各コミセンに詰めるという職員を指定している。昨年の6月の地震の際は、中央コミセンに1名張り付いて対応したという形になっていた。

会長 それでは協議(2)に移って、事務局より説明をお願いします。

(事務局説明) (2) 朝日地域予算の概要について

- 会長 　　ただいま事務局から説明のあった件についてご質問等あればお願いします。
- 委員 　　来年度の予算調書の中で、中野新田の児童公園の東屋の修理があるのは良いこと。朝日地域には、農村公園など、作られた補助制度によって維持管理するやり方が違う。各地域では子供が少なくなって大変な状況もあるが、必要な地域では遊具の安全の確保もままならない状況もあるようだ。社会福祉協議会の地域基金を活用して遊具を整備する補助を来年度から取り組むようだ。農村公園は市で管理という事で対象外という場合もあるようで、作った当時は補助活用で造成したと思うが、その後の維持管理で制度によって補助事業が使えない場合でも、地域の負担が違うという事や維持管理のやり方が違うために混乱が起きないようにしてもらいたい。
- 産業建設課長 　農村公園、都市公園については、日常的な維持管理は地元でやって頂くよう市ではお願いしている。また、遊具等の修繕や新規設置などについては社会福祉協議会から多大なるご協力を頂いていることに感謝したい。東屋の関係だが、昨今、少子化によって農村公園で遊んでいる子供を前ほど見なくなった。遊具等を整備してもなかなか利用率は高くない。逆に最近の利用状況を見ると、高齢者のグラウンドゴルフ等の利用が非常に多く、私が着任してから、例えば大針などの東屋を修理させていただいた。この修繕の目的として、熱中症でお亡くなりになるケースが問題視されていて、農村公園のように広い場所での利用で、気分が悪くならないようにということで重要な役目をしているし、集落で管理といっても東屋を修理するのは無理があるので、東屋の他、防球ネットなどの費用の大きくかかるものを優先して修繕しているところなので、遊具のペンキ塗りや注油などは、地元の方から協力頂けるとありがたい。東屋は一気にできるわけではないので順次やっていきたい。
- 会長 　　3 ページの大鳥自然の家の環境整備について、炭焼き窯があるが、これは昨年度から継続という事か。一年で完成させてもらった方がありがたいのだが。
- 総務企画課長 　指定管理者と相談しながら、その年に必要な物ということで整備しているもの。たまたま炭焼き窯が2 か年掛かっているが、毎年同じ予算を確保し、その金額の範囲内でできることをしている。以前はちびっこ木の実園や池の整備などに利用していた。予算内で必要な整備を検討して構わないので、相談しながら進めていきたい。
- 委員 　　4 ページの 28 番、高齢者の雪下ろしの助成について、一回あたり 16,000 円となっているが、これはあくまでも非課税ということで対応されているが、高齢者一人暮らしの家庭については、住宅、倉、車庫などある中で対象となるのは住宅だけと聞いている。例えば、住宅が自然落下になっている場合、いくら非課税でも蔵の雪下ろしには使えないという事か。
- 市民福祉課長 　こちらは、自宅の雪下ろしに対しての補助という事で、車庫や倉庫、小屋などは対象外となっている。この補助の目的がどちらかというと豪雪対策ではなく、低所得者に

対しての支援という事で、全市的にこのような基準となっていることをご理解いただきたい。

委員 会長からも開会の時に新型コロナウイルスについて触れていたが、世界的な情勢がこのような中で首相が一言呼びかけた週は人の動向がぐっと減っている。また、都知事が呼びかけた際も同じような効果があった。逆に緩むと2週間後の発生が多くなるなどの状況であった。鶴岡市でも、交流人口が多くなっている時代で、いつどうなるか分からないので注意していくしかない。市の会議でも一時間に1回換気するなど対策をしているようだが、市長から市民に向けてのメッセージ発信などの予定はあるか。

支所長 現状では、市は対策本部という事で設置しており、今日は7回目の会議があった。その都度情報の共有をして、ホームページなどでその内容を発信している。また、市内で個別のイベントの開催や学校行事の持ち方について、その都度、対策本部で状況を判断しながらどのような持ち方が良いか判断している。新聞で報道されているのでご存じだと思うが、現状で宿泊業、飲食業がかなりの落ち込みがあり、対前年比で3月はおよそ5割、4月になるとほとんど予約が無い状況になっている。一番先に宿泊業や飲食業への経済対策という事で、3月市議会定例会にて、補正予算で1億円の対策を行うことを決めた。その後、国等の政策が入ってくると思うのでうまく組み合わせながら経済対策を行っていくという事になると思う。現状で山形県内で感染者が発生していないことから、それほど大きな危機感を持っていないという現状だが、感染拡大防止の3原則を前提としながら、対策本部で一つ一つの事業について判断をしている。

委員 経済と感染予防対策を並行してやっていかなければならない難しい状況で、我々個人個人も先が見えない中で緊張感をもってやる必要があると思う中で、市としてのPRをもっとしていくべきだと思う。

支所長 今のところ、ホームページでの情報提供や折り込みチラシの配布等をしている。庁舎で感染者が出た場合の対応など、色々と検討しているところである。

委員 公共施設での使用する際の制限などの考えはあるか。

支所長 今のところ、そのような細かいところの決まりはない。現状では、一つ一つのイベントの内容を見ながら判断しているところである。

会長 ありがとうございます。  
これで予定の時間にもなったので、座長の任を下りたいと思う。ありがとうございます。

事務局説明 その他 高校生通学補助について

総務企画課長 他に皆さまから何かございますか。  
無ければ閉会のご挨拶を副会長にお願いしたいと思います。

副会長 長時間にわたって色々ご審議頂きましたし、ご意見を頂きました。地域の現状課題について切実な意見も出されたのでこの件については色々今後検討を重ねていってもらいたいと思う。これで第2回 朝日地域振興懇談会を終わります。

(終了 15時30分)